

巻頭 学長エッセイ「チャンスの像に想う」—— 1  
平成23年度事業方針及び事業計画について—— 2

## 特集■日体大の指導力

指導者として活躍するOBインタビュー—— 3  
日体大生の未来／教員採用試験合格者座談会—— 9  
新入生導入プログラム『体育・スポーツ科学入門』より—— 11  
クラブ情報●2010年度下半期クラブの主な大会成績—— 13  
NEWS●2010年度下半期ニュース—— 13  
INFORMATION●dot.NITTAIDAI—— 15



第90回全国高校ラグビー大会 優勝  
桐蔭学園高等学校  
藤原 秀之 監督

甲子園最多勝利数  
史上最多記録 59勝  
智辯学園和歌山高等学校  
高嶋 仁 監督

# 日体大の指導力

第63回全日本バレーボール  
高等学校選手権大会 優勝  
東九州龍谷高等学校  
相原 昇 監督

第39回全国高校サッカー  
選手権大会 優勝  
滝川第二高等学校  
梶 裕保 監督

第41回全国高等学校  
バレーボール選抜優勝大会 優勝  
東洋高等学校  
北畠 勝雄 監督

# 日体大の指導力

## 大学改革。指導者育成。日体大スピリットを礎に、その使命を果たしていく。

トップアスリートになりたい。優れた指導者、教員になりたい。

希望に燃える新入生を迎え、新年度がスタートしました。

平成23年11月には、東京世田谷キャンパス再開発の第三期工事が竣工予定であり、これを弾みに、

大学改革の歩みをいっそう早め、社会の期待に応えていきます。

今号のテーマは「日体大の指導力」。特集では、指導者として脚光を浴びる日体大OB取材し、

日体大が誇る「指導力」の本質に迫ります。また、教員採用試験に現役合格し、指導者としてスタートした

先輩の座談会では、日体大生の「未来」（＝夢を実現する力）について考えていきます。

閉塞感漂う時代を打ち破るのは、若きチャンスメーカーたち。

さらに、これを育てる指導者・教員の役割がますます重要になっていることは言うまでもありません。

まさに、社会は「日体大の指導力」を求めているのです。



“チャンス”の像(昭和29(1954)年秋設置)



日本体育大学  
日本体育大学女子短期大学部

学長

谷釜了正

たにがま りょうしょう

### 学長 エッセイ

#### チャンスの像に想う

本学の教育方針は「一体の銅像（裸体）に体现されています。これは昭和29年の秋に当時の学長であった栗本義彦先生の発案によって製作されました。ラグビーの選手が前屈みになってボールをパスするシーンが表現されています。ラグビーをこよなく愛した栗本学長がラグビーの精神を学風にしようとしたことによります。「トライゲッターであるよりもチャンスメーカーたれ!!」との精神を「ポイントゲッターになるよりもチャンスメーカーになれ!!」と読み替え、あらゆるスポーツに適用できる標語としました。かくて、この像は「チャンス（メーカー）」と名付けられたのです。

この選手の像は体操選手の肉体を誇っているようにもみえます。それはラグーマンを象徴するのではなくその他のスポーツの選手をも想起させようと思図したことによります。本学の卒業生はやがて教育の現場に立ち、教え子たちの能力を引き出さねばなりません。トップランナーとして率いるのではなく、一歩引いて子供たちが大きく成長するためのチャンスを提供できる人材（チャンスメーカー）になつて欲しいという願いが込められています。半世紀ほど前に打ち立てられた、この教育の方針は、今も、本学に生きついでいます。



# 平成23年度事業方針及び事業計画について

日本体育大学・日本体育大学女子短期大学部

## 1. 事業方針

文部科学省から今後のスポーツ政策の基本的方向性を示す「スポーツ立国戦略」が公表され、今後十年間で実施すべき五つの重点戦略が示された。この戦略は本学がその実現をもとめつつけてきたことに鑑み、本学の生き残り戦略の一環として全学挙げて取り組むとともに、社会や学生からの多様なニーズにも積極的に対応し、大学としての社会的使命を果たすべく、大学改革に取り組む。

人口減少社会に入り、18歳人口が年々減少しているとともに体育系学部・学科が新增設される状況下にあつて優秀な学生確保のための入試改革は急務である。社会人入試・センター入試・同窓会推薦入試などの方法の導入を検討する。

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令が施行され、大学が公的な教育機関として、その教育の質を向上させる観点から、社会に対する説明責任を果たすことが法律上明記にされたことに伴い大学及び短期大学部で現状の検証を行い、一層の情報公開に努める。

平成19年2月にスタートした日本体育大学東京・世田谷キャンパス再開発計画も平成23年11月に第三期工事が竣工予定であり、建物の完成後は、平成24年度中にキャンパスの外構周りの整備を図る。竣工する教育研究棟及びスポーツ棟の有効活用を図るため、機能的かつ効率的な運用及び適切な管理を実行して、より質の高い学習環境を整備し、学生支援にあたる。

現在、検討中の東京・世田谷地区の学生寮の建て替え工事の推進を図る。

教学面においては、大学の2009カリキュラム及び短期大学部の2010カリキュラムの検証結果を踏まえ、より質の高い教育が提供できるような改善に努めるとともに、学生生活における各種の啓発活動と合わせ、教養豊かで社会において即戦力となる人材の育成に傾注する。併せて現役学生及び卒業生の就職活動支援のさらなる充実にも努め、各界に優秀な人材を排出する。

総合スポーツ科学センター構想を実現させて、本学の研究の効率化を図り、研究成果を大学の内外に発信する。併せて研究室体制の再整備に着手し、教育・研究組織の機能化を図る。

教職員のスキルアップは欠かすことのできない重要事項として捉え、FD、SDを積極的に取組む。

## 2. 事業計画

### (1) 入学試験制度の改善

平成22年10月にアドミッションセンターが開設されたのを機に従前の入学試験の方法に加えて、社会人入試制度、センター入試制度、同窓会推薦入試制度等の導入を検討する。これに併せて入試制度を全体的に見直す。

### (2) 東京世田谷キャンパス再開発及び既存施設設備の整備

平成23年11月に第三期工事のスポーツ棟の残りの5分3が完成し、ガレリアにより教育研究棟と接合する。これらを踏まえ、授業及び研究が展開される新校舎の有効な運用・管理計画を遂行する。また、東京・世田谷地区の学生寮の整備のマスタープランに則り、和泉校舎跡地に女子寮の建築工事に着手する。

### (3) 教育情報の公開

学校教育法施行規則等の一部が改正され、公表すべき情報が法令上明文化されたことに伴い、大学が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から、省令に則り大学の教育研究情報を公開するため、ホームページの運用効率を高めるとともに、各種の刊行物を整理して学内外への広報活動の一層の充実を図る。

### (4) 全学ネットワーク環境の充実

東京・世田谷キャンパス再開発第3期工事の竣工後の全学ネットワークについて安定的な運用や管理工数、消費電力量の削減等を図るため散在する機器の集約等を検討し、実現を図る。また、基幹業務システムの安定的な活用のため、EUC(Extended Unix Code)の促進及び機能の追加等を検討し、導入計画を構築する。

### (5) 全学的広報戦略

学生募集に繋がる広報戦略として、学内外におけるコミュニケーションの活性化を図り、本学の持つ独自性並びに教育研究による成果等を幅広く社会に発信する。

また、東京・世田谷キャンパス再開発の完成に向けた広報活動を実施する。

アドミッションセンターの円滑な運営を図るとともに、現行人試制度の検証を適切に行い、AO入試・推薦入試・一般入試・社会人入試・センター入試・同窓会推薦入試などを検討し学生募集活動を強化する。また、入口から出口までのシステムを構築するため、キャリア支援センターと連携し、同窓生の信頼を図るシステムを構築する。

### (6) 大学改革の推進

平成22年度中に実施した大学の2009カリキュラム及び短期大学部の2010カリキュラムの検証結果を受けて、新カリキュラムを編成して適切な教育方法及び教育環境の充実に努める。併せて大学・短期大学部の改組及びスポーツ局の改組を検討し、具体案を策定する。大学院では、大学改革11構想に基づき、博士前期課程のカリキュラムを改め体

育科学コースと体育実践コースの2履修コースを設けて後者のコースに新たにコーチング学系とスポーツ教育・健康教育学系の2学系を開設した1年目の検証を行う。

### (7) 学生支援の充実

学生の食生活を改善するため学生食堂及び学生寮の食事の改善及び大学内における学生休息のための場所の提供を検討し、学生の福利厚生面の充実を図る。さらに、学生相談の増加及び相談内容の多様化に対応するため、東京・世田谷キャンパスと横浜・健志台キャンパスの双方に学生相談カウンセラーを配置し日常的に学生相談ができるべくその充実を図る。併せて、学生に対する防犯及び薬物乱用防止等に関する各種の啓発活動や自転車・バイクの交通ルール講習会等を積極的に推進し、健全な学生の育成や学生生活の安全を確保する。

アドミッションセンター及びキャリア支援センターが附置機関として機能が果たせるよう入口と出口の組織の改編がなされたことに統括して、学生のキャンパスライフを支援する学生生活支援センター(仮称)の設置を図る。

### (8) 健康管理対策の充実

学生及び教職員の健康管理を高いレベルで維持するため、産業医、学校医、保健師等との連携の強化を図る。近年、流行している新型インフルエンザに対する対応を踏まえ、学内における危機管理体制の確立に努める。また、感染症や生活習慣病、その他疾病に関わる題材の専門家による講習会等を開催し、予防策や緊急対応の啓発活動を推進する。

### (9) 研究の推進を図る

本学の研究機関として体育研究所、スポーツ・トレーニングセンター、大学院研究科が組織されているが、これらの研究機関から得られた成果を総合的に発信する機能的組織として総合スポーツ科学センターを組み上げる。このスポーツ科学センターを軸に学内の学芸会を組織し、学術雑誌を刊行して研究成果を内外に発信する。また、研究室体制の再編を図り、機能的・効率的な研究を推進する。

### (10) FD、SDに積極的に取り組む、教職員のスキルアップを図る

教職員のスキルアップのため、FD及びSDを重要事項として捉え、積極的に取組む。

### (11) 募金活動の実施

平成21年6月から開始した日本体育大学東京・世田谷キャンパス再開発事業のための募金活動については、今年度も引き続き実施する。

# 日体大の指導力

高校スポーツの現場で指導者として活躍している日体大OBたち。

全国制覇を成し遂げるなど、

さまざまな種目で輝かしい成績をおさめている。

わが国のスポーツ界への貢献はもちろんのこと、

教育者として多くの若者たちを育て上げた功績も大きい。

その卓越した指導力の原点は何か？

指導者たちの日体大時代にスポットをあてることで、

明らかにしてみたい。

スポーツへの情熱。選手、生徒たちへの愛情。

彼らの熱きDNAを受け継いでいくことが、

私たちに課せられた使命である。



■バレー（女子）  
第63回全日本バレーボール  
高等学校選手権大会  
優勝  
東九州龍谷高等学校  
相原 昇 監督…8p



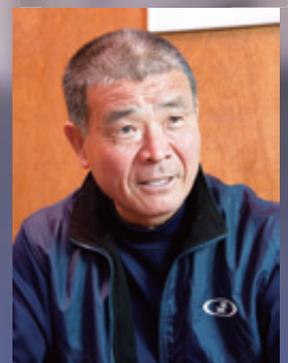
■バレー（男子）  
第41回全国高等学校  
バレーボール選抜優勝大会  
優勝  
東洋高等学校  
北畠 勝雄 監督…7p



■サッカー  
第89回全国高校サッカー  
選手権大会  
優勝  
滝川第二高等学校  
梶 裕保 監督…6p



■ラグビー  
第90回全国高校ラグビー  
大会  
優勝  
桐蔭学園高等学校  
藤原 秀之 監督…5p



■野球  
甲子園最多勝利数  
史上最多記録  
59勝  
智辯学園和歌山高等学校  
高嶋 仁 監督…4p

# 野球をやった良かったと感じてもらえるように

智辯学園和歌山高等学校 (和歌山県)

**高嶋 仁 監督**

## Baseball Titleholder



**甲子園での感動が  
人生を変えた  
指導者になりたい一心で入学**

私が日体への進学を志したのは、野球の指導者になりたかったから、ただそれだけです。私の中学時代の野球部の先生が日体出身で、若い先生の姿を見て憧れていたところもあったのだと思います。将来指導者になろうと決めたのは、高校2年生(長崎海星高校)の時です。選手として甲子園に出て、開会式で行進した時に強く感動したことを鮮明に覚えています。そこで、「次は指導者になって絶対に来るぞ」という想いが湧いてきました。人は感動すると変わると言われますが、私はそこで変わりました。もちろん自分でプレーもしたいという考えもありましたが、最後は指導者として野球に携わりたいという気持ちが強くなりました。

**思い出に残るのは鉄棒の授業  
大学時代には  
人間関係を学んだ**

1年生の春から3番を任せられました。1年生の春のリーグからだったので、本当に入学してすぐですね(笑)。下級生の頃は上下関係も厳しかったのですが、「そんなことで負けへん」という気持ちで乗り越えました。思い出に残る授業は鉄棒ですね。みんな野球ばかりやっていたので、なかなかできないのですが、鉄棒ができないと単位をもらえない。だから、リーグ戦中にも手にできた豆を潰しながら必死でやりました。ただ、そうするとバットが握れなくなってしまうので、監督にめっちゃくちゃ怒られて…(笑)。大勢の部員が在籍した中では、人間関係を学ぶことができたと思います。上下関係も厳しく、難しい人間関係がある中で、様々なことを学べたことは今につながっていると思います。

**大切なのは精神面  
努力の持続が成長の糧に**

野球の指導に関して、技術的なものというのは、基本の反復しかありません。大切なのは、精神的な部分。努力を持続するということだと思います。センスのある選手でも、努力を続けなければ、一生懸命練習を続ける選手に抜かれます。人間の体というのは、毎日練習を繰り返していくと、うまくなっていくようになっていくんですよ。続けることが成長につながるのだと思います。意図的に厳しい状態で練習試合をさせることもありません。厳しさを体験することで、選手は変わります。そういった経験をすると、世の中に出て会社で上司に厳しいことを言われくじけそうになっても、「あの頃に比べれば」となりまます。苦しいことにも耐えられるという人間を育てたいと思っています。自分に与えられたことをしっかりとやることというのは、世の中

に出て必ず生きてきます。もちろん甲子園にも連れて行きたい気持ちは強いですが、世の中に出てから「野球をやっていた良かった」と感じてもらえるようにとも考えています。

### 日体大生へのメッセージ

将来何になりたいのかというのは人それぞれあると思いますが、指導者を目指す上では、日体大で仲間とともにとっても多くのことを学べると 생각합니다。私は、在学していた頃の上級生と下級生、上下7学年のメンバーとは今でも密に連絡をとっています。例えば練習試合をやる時には連絡をとりますし、情報交換もしてきました。いつまでも現場監督をやっているのは私ぐらいになってきましたが(笑)、彼らとのつながりは財産です。皆さんにも、ここで生涯付き合えるような仲間を見つけてもらいたいと思います。



#### プロフィール

高嶋 仁(たかしま ひとし)  
昭和21年5月30日生まれ。昭和44年度、体育学部体育学科卒業。長崎海星高時に甲子園出場。日体大卒業後は智辯学園高を経て55年より現職。3度全国制覇を達成。甲子園での監督59勝は、高校野球史上最多。

#### 共に戦った日体大 OB

##### 第83回センバツ高校野球大会 (2011年)

代表地区	高校名	監督名
宮城	東北	五十嵐 征彦
和歌山	智辯和歌山	高嶋 仁
大阪	履正社	岡田 龍生
岡山	創志学園	長澤 宏行
長崎	波佐見	得永 健
熊本	九州学院	坂井 宏安



# 指導は懐の深さ。そして常に前進すること

桐蔭学園高等学校 (神奈川県)

藤原 秀之 監督

## Rugby Champion



**授業はすべてが思い出深く 周囲の環境が刺激的だった**

私が日体に入学したのは、高校時代(大東大一高)の恩師から薦めが大きかったです。当時は教員になるなんてことは考えてもいませんでしたが、今振り返るとラグビーの道を究めるのには最適な場所でした。あの時は200人近く部員がいたと思います。寮での共同生活に最初は戸惑うことも少なくありませんでしたが、厳しくも温かさのある先輩や同級生が今の自分を形成してくれました。授業も思い出深いものばかりですね。栄養学などは今の指導にも生かされています。また実技も忘れられないですね。柔道では当時のオリンピックメダリストに指導を受けましたし、相撲もやりました。今でもまわしは自分で締められると思いますよ(笑)。とにかくすべてが刺激的な時間でした。

**寮で培った責任感 対応能力を磨き上げる**

ラグビーの練習は高校時代に比べると厳しかったですが、常に日本一になるんだという目標があったことでそれを乗り越えることができたと感じています。4年次には寮長を務めました。責任のある仕事を任せられたこと、経験が教員になった今に生かされているかもしれないですね。今もそうですが、常に同じことばかりは起きません。下級生の面倒を見る中でいろいろなハプニングや課題が出てきました。そこで、どのように対応するかということは、自らの懐の深さや大きさなどを試されているようにも感じられました。それは今も同じです。生徒たちは全員が違う個性を持っていきます。彼らの短所を見るばかりでなく、良いところを見つけてあげる。そして一人ひとりに合った声をかける。この繰り返しですが必勝法はありません。だからこそ、教員という仕事は面白いと思うのです。

**ラグビー界への恩返し 常に刷新の連続を**

現在(平成23年3月現在)は高校3年生の担任を務めながらラグビー部の指導をしています。全国制覇を成し遂げられましたが、ここまで来るのはもちろん簡単ではありませんでした。その中で生徒たちとともに頭を悩まし、指導方法を刷新しながら前進してきました。日体時代の仲間からの応援もありました。全国優勝したことで自分の指導スタイルが変わることはありません。その時代に応じた指導を常に追求し、実践していくだけです。また今後も自分が携わってきたラグビーへの貢献、恩返しは常に念頭に置きたいと思っています。競技人口を増やす取り組みや、世界に通じるプレーヤーの育成、日本のラグビーが強くなるように積極的に海外の指導法なども取り入れていく必要があると考えています。

**現役日体大生へのメッセージ**

大学時代はいろいろなことに目を向けるチャンスの中でもあります。しかし、そこで敢えて自分のこれまで挑戦してきた道を究めることも頭に置いてほしいと思います。日体はスペシャリストが集う場所でもありません。先生方はもちろん、同じ部活動の仲間やクラスメイトも全員がスペシャリストであるのです。そこで4年間、自分が徹底的にやり通したということを作ってほしい。そうすることで将来の自分の道も拓けると思いますし、辛い場面に直面した際にも必ず乗り越える力になるはずです。



### 共に戦った日体大 OB

第90回 全国高校ラグビー大会 (2011年)

代表地区	高校名	監督名
宮城	仙台育英	丹野 博太
山形	山形中央	松本 栄
栃木	國學院栃木	吉岡 肇
埼玉第2	深谷	横田 典之
千葉	流経大柏	松井 英幸
東京第2	國學院久我山	竹内 伸光
神奈川第2	桐蔭学園	藤原 秀之
長野	岡谷工	白鳥 憲之
新潟	新潟工	樋口 猛
福井	若狭	朽木 雅文
京都	伏見工	高崎 利明
山口	萩商工	石東 正之
徳島	貞光工	都筑 吉則
長崎	長崎北陽台	品川 英貴

### プロフィール

藤原 秀之 (ふじわら ひでゆき)

昭和43年1月10日生まれ。平成元年度、体育学部体育学科卒業。大東大一高時代は、3年次に全国制覇。日体大卒業後は平成14年から桐蔭学園高監督に就任。監督として7度目の花 outcomes 出場で悲願の初優勝を遂げた。

# 選手たちが自分の力で伸びていくチームづくり

滝川第二高等学校 (兵庫県)

**梶 裕保 監督**

## Soccer Champion



**サッカー部で苦楽を共にした  
友は今も戦友**

日体大の学生証は、今も肌身離さず持っています。いわば、苦楽がいついば詰まった青春の証です。体育教員を目指していたこと、兄(現・滝川高校サッカー部監督)が日体大に進んだこともあって、私も真つ先に行きたいと思った大学でした。兄からは「きついで」と言われましたが、「それでも頑張る!」と意欲满满で入学したことを覚えています。一年生の時は深沢で、二年生以降は健志台の合宿所で生活しました。兄の言うとおり、特に一年生の間は想像以上にきつい日々でした。同期は布啓一郎氏(元千葉県市立船橋高校監督)、深沢一智氏(山梨県立韮崎高校監督)ら。今でも年1回集まっています。指導者になってからも苦労や悩みを分かち合う、良き「戦友」たちです。

**楽しむため、強くなるため  
自分で工夫していく**

当時の日体大サッカー部は約200人。トップチーム以下、複数のチームに分かれて、限られた時間の中で練習するスタイル。ボールに触れる時間は貴重です。どうしたら効率的な練習ができるか。この時に試行錯誤したことは、今の指導でも役立つと思います。自分で工夫して練習することの大切さを実感しました。ただ言われたメニューをこなすだけの受け身の練習では伸びないし、楽しくない。今の選手に考えさせる指導スタイルは、日体大時代の経験が基になっています。学科の授業はもちろんですが、部活動の中でも指導力を鍛える機会がたくさんあります。自分の競技力を高めることはもちろんですが、特に上級生になったら、どうしたら後輩を伸ばすことができるか、指導者の視点を持つて練習に取り組んで欲しいですね。

**目標は何か。  
そのために何をすべきか。  
対話を通して導いていく**

全国制覇も生徒たちの力によるもの。決して特別な指導をしたとは思っていません。まず、目標は何なのか。それを実現するためにどうすればいいか。生徒たち自身に考えさせる。そうすれば、例えば監督の私が見せなくても、生徒たちは自覚を持って練習に臨みます。逆に押し付けの指導をすれば、監督にほめられるためのパフォーマンスをするだけで、目の届かないところでは手を抜く者も出てくるでしょう。生徒に自覚を促すためには、対話が欠かせません。そのために、グラウンドの整備や水抜きも一緒にやりました。近過ぎず負担にならない、適度な距離感を保つことに気を配っています。競技スポーツである以上、勝つことは前提ですが、一方で勝ち負けはその時々の結果に過ぎません。生徒の成長を

**現役日体大生へのメッセージ**

長い目で見て、教えなければいけないものと大事なことがたくさんあると思うのです。

オリンピックや世界大会を目指す人、国体を目指す人、好きなスポーツに打ち込んでいく人。それぞれの立場で頑張ることが、日体大らしさだと思います。世間から見ても、きら輝いている大学であり続けて欲しいと思います。教員の立場から言えば、人をつくるという、これほど素晴らしい職業はありません。生徒に正面から向き合えば、卒業して何十年たつても、それが感謝や笑顔となって返ってきます。入学した時の志を忘れずに、それぞれの目標に向け精一杯頑張ったと誇りに思えるような大学生活を過ごしてください。



**プロフィール**

梶 裕保 (かいてい ひろやす)  
昭和35年9月17日生まれ。昭和57年度、体育学部体育学科卒業。クラブチームの指導者を経て、平成3年同校コーチに就任。平成19年より監督。今年、第89回全国高校サッカー選手権大会で初の全国制覇を達成。

**共に戦った日体大 OB**

第89回全国高校サッカー選手権大会 (2011年)

代表地区	高校名	監督名
東京 A	駒場	山下 正人
神奈川	座間	内田 雅之
福 井	丸岡	小阪 康弘
滋 賀	野洲	山本 佳司
兵 庫	滝川第二	梶 裕保
島 根	立正大淞南	南 健司



# やり遂げることの連続が喜びを生む

東洋高等学校 (東京都)

北島 勝雄 監督

## Valleyball Champion



**厳しい環境での経験が  
強い自分を作り出してくれた**

高校時代にインターハイに出場できたこともあり、バレーボールをさらに極めたいと考えていた際に当時の恩師からの勧めもあり、日体に進学することにしました。入学前に練習を見学させていただいたのですが、先輩たちが自分よりもはるかに大人に見えて、そして目の前では考えられないような厳しい練習をしている。あの体育館の光景を見たときの衝撃は一生忘れることはないでしょう。自分もその環境に身を投じ、やっていけないの不安なときもありましたが、先輩や多くの仲間を支えられて成長できたのではないのでしょうか。授業でも他競技のエキスパートが多くいたことは刺激的な時間でした。寮生活も含め、あの4年間は今でも人生の宝物だと思います。

**「全国大会で会おう」  
仲間たちとの固い約束**

当時から部員が200名以上いましたから、そのチーム全体の連帯感を大事にするところが結果を出すには不可欠だったと思います。厳しい練習を続ける中でも、部員全員がひとつの目標に立ち向かうことの大事さは今の指導にも生かされています。また当時の仲間たちとは卒業する際に「今度は指導者として全国大会で会おう」という約束をしたことを思い出します。歳を重ね、近い年の仲間だけでなく教え子が全国レベルの指導者になっていたりすると、指導者を長く続けてきて良かったなと感じます。昔と変わらず、今でも指導者として全国各地にライバルが存在し、彼らと切磋琢磨できる喜びが、常に前を指す原動力になっているのではないのでしょうか。

**昔も今も変わらない  
生徒たちへのアプローチ**

33年間指導の現場におりますが、生徒たちの気質のようなものは根本的には変わっていません。いくら時代が変わろうとも、子どもたちの持つ純粋なエネルギーを引き出すことが大事なのはいつまでも変わりません。実際にコートに立つのは選手たちです。そのこと忘れてはいけません。彼らが楽しくバレーボールをプレーできる状態にすることが私の役割です。私は生徒たちと向き合う際には一方的に自分の指示を伝えるだけでなく、選手の気持ちや感じていることを常に意識しながら指導することを念頭に置いています。試合中全力を出すのは誰でも一緒です。そこで全力を出したときに相手よりも秀でていなければ、勝利は近づかない。当たり前のことですが、それを常に意識させ続けることが指導におけるもっとも重要視している点です。日本一になったからといって、指導のスタ

イルを変えることはありません。毎年、毎日新しい挑戦だと思いつながら、指導の現場に立ち続けていたいと思います。

### 現役日体大生へのメッセージ

何をやるにしても、やり遂げる充実感を味わって欲しいと思います。そして大学時代だからこそ、得ることが出来る仲間を多く作ってもらいたいですね。そこでの団結力や、仲間意識は卒業後いつまでも続くはずですよ。実際に私は全国に仲間、友人がいます。今でも彼らとは熱く語り合うことができます。今でも昔の関係そのままに日本中に友人がいることは私の誇りです。是非、何事にも挑戦し続ける学生時代を過ごしてください。



### 共に戦った日体大OB

第41回 全国高等学校バレーボール  
選抜優勝大会 (2010年)

代表地区	高校名	監督名
秋田	雄物川	宇佐美 義和
栃木	作新学院	織田 祐蔵
神奈川	弥栄	金子 太郎
東京	東洋	北島 勝雄
石川	石川県立工業	大塚 正則
滋賀	近江	太田 勝之
京都	東山	豊田 充浩
奈良	添上	西口 亨
福岡	福岡大学大濠	大賀 俊住
熊本	鎮西	畑野 久雄
大分	別府鶴見ヶ丘	柿原 茂徳
宮崎	宮崎工業	金丸 真也

### プロフィール

北島 勝雄 (きたはたかつお)  
昭和29年7月10日生まれ。昭和51年度、体育学部体育学科卒業。茨城・江戸崎高校から日体大に進学。卒業後は時計会社に一年間勤務、その後東洋高校の教員となる。8年間、コーチを務めた後、監督に就任27年目。

# 目標は立てない。目指すのは「最高の追求」

東九州龍谷高等学校（大分県）

相原 昇 監督

## Volleyball Champion



### 中学で決めた日体大への進学 インカレ優勝が一番の思い出

私は中学の頃から強く日体大に進学したいと思っていました。中学校の監督が日体大相撲部出身という影響もありましたし、ロス五輪で活躍をしていた河合俊一さんへの憧れもあって日体大への進学を決めていました。当時、全日本中学チームのエースアタッカーだったので、将来進む道を思い描いていたのです。4年次に全日本インカレで優勝したことが大学時代での一番の思い出でしょうね。大会の直前に尊敬していた部長の中田茂先生が亡くなられ、優勝以外考えられませんでした。準決勝後、疲労と緊張で私は倒れてしまったのですが、チームメイトが森田淳吾監督に「相原じゃなきゃだめだ」と伝えてくれたそうなんです。そんな仲間の気持ちに感謝し、燃えました。その結果、優勝できました。学業もがんばりましたよ。一つも単位を落とさずに卒業したのは部内でも僕だけだと

思います（笑）。寮の部屋が真面目で、単位を落とすと先輩に怒られました。だから、私も4年次にもその後輩に言い伝えましたよ。

### 200人の中で一番努力した 「やればできる」と学んだ

当時、バレー部には約200人の部員がいて、レギュラーになれたのは4年次です。レギュラーにならず苦しんでいた時、中田茂先生から「絶対に諦めるな。自分が出たらどんなプレーをするかイメージしておけ。必ず出るチャンスがあるから」と言われてがんばりました。その時に「やればできる」ということを学んだのです。当時は通学時にバス電車以外はずっと通うなど、部員の中で一番努力しましたね。だから、4年でレギュラーとなり、大学リーグやインカレでレシーブ賞を取れたと思います。努力は裏切らないことを教えてくれました。

### 選手に線を引かない 「最高の追求」を続ける

最近では自分で「俺はここまでしかできない」という線（限界）を引く選手が多く、指導者も「コイツはここまでしかできない」と線を引く方が多いと感じます。だから、私は選手たちに対して線を引かず、平等にチャンスを与えることを心掛けています。また、選手との距離感も大事です。僕は選手と個別で話すことはせず、全体を見ることを心がけています。例えば、今年の春高バレーの決勝戦（全日本バレーボール高等学校選手権）で、最初で最後の先発起用した選手がいました。彼女が力を付けてきた姿を見ていたから起用しましたし、それを他の選手が見て、私が見ているのを感じてくれる。だから、頑張る集団になるのです。僕は目標を立てません。目標を達成した時に終わってしまうし、達成できなかつた時に挫折する可能性があるからです。今後も「最高の追求」を続けていきたい

と思います。

### 現役日体大生へのメッセージ

私のモットーは「熱く冷静に」です。日体大は先生たちを含めてみんなが情熱的で、一生懸命にやる大学です。理屈じゃなく、実戦で自分を磨き、仲間や人とのつながりを大切にするところだと思います。だから、卒業してから人とのつながりに愛情があります。僕も多くの先輩方から今の自分に引き上げてもらったと感じています。日体大は情熱を持って一生懸命にがんばり、人と携わるのが好きな人に向いていると思います。



### 共に戦った日体大OB

第63回 全日本バレーボール高等学校選手権大会（2011年）

代表地区	高校名	監督名
岩手	盛岡女	伊藤 崇博
宮城	古川学園	岡崎 典生
福島	郡山女大附	高橋 正
東京	共栄学園	太田 豊彦
神奈川	川崎橘	羽田野 義博
富山	富山第一	宮本 雅也
石川	金沢商	富永 正英
三重	津商	秋津 修
京都	京都橘	三輪 欣之
和歌山	信愛女短大附	岡村 学
山口	誠英	田淵 正美
高知	高知中央	小林 稔孝
佐賀	鹿島美	蘭 恵介
長崎	九州文化学園	井上 博明
大分	東九州龍谷	相原 昇
鹿児島	鹿児島女	神川 尚彦

### プロフィール／

相原 昇（あいはらの のぼる）  
昭和43年7月2日生まれ。  
平成2年度、体育学部体育学科卒業。平成7年に香川県・高松北高校監督に就任、その後平成16年に東九州龍谷高監督に就任。翌年の春高バレーで初優勝、現在4連覇中。



## 硬式野球部



橋浦 雅裕  
(宮城県 利府高校出身)  
体育学部体育学科  
平成23年3月卒  
採用先: 東京都私立明法高校

### 合格の瞬間

練習が終わった直後に電話が。一緒にいた友達や後輩も泣いてくれて感激しました。

### それでも部活動をやりたかった!

橋浦 ● 硬式野球部を4年間続けました。練習は週6日。投げ出したくなったこともありましたが、野球をやりがちなため教員になれることを証明したかったです。他の人ができないことを経験することで、生徒に教えられることがあるのではないかと思います。

中島 ● 高校までバドミントンをやってきて、やりきった感“はあったのですが、入学後、往原体育の授業の帰りにバドミントン部の練習を見ていたら、思わず入りたくなってしまっ。部活と勉強の両立を最後までやり遂げることができたのが、とても嬉しいですね。

佐野 ● 高校では野球部でしたが、いろいろな競技ができたほうがいいと思い、陸上競技部に入学しました。最初、ハードで体重が9キロも減ったんですよ。でも、陸上の楽しさを知り、また人間関係も広がってよかったです。

毛利 ● 絶対に教員になる。しかも現役合格を目指していました。研修部には教員を目指す人たちが集まっています。刺激を受けましたね。器械体操や球技、ダンスなどの模擬授業を実践し、採用試験や教育実習で役立ちました。

### 採用試験に向けた勉強のスタートは?

橋浦 ● 採用試験の勉強を始めたのは2年生の5月から。まず何から手をつけていいかわからな

## 日体大生の未来

# 合格者座談会



この春、教員としてデビューする先輩たち。部活動と両立させながら、夢を実現した。未来は自分の力で切り拓くもの。先輩たちの体験談から、有意義な大学生生活を過ごすヒントを探ってみよう。

# 部活を4年間続けたからこそ、今の自分がある



## バドミントン部



中島 実和乃  
(神奈川県 私立鶴沼高校出身)  
体育学部 社会体育学科  
平成23年3月卒  
採用先: 神奈川県公立高等学校

### 合格の瞬間

ネットで確認して「よしよし」とガッツポーズ。その後、何回も番号を見直しました。

とを覚えていきます。

### 自分の勉強スタイルは?

毛利 ● 研修部は4年連続で先輩が現役合格しているの、まず先輩のお話を聞きました。勉強に本腰を入れるきっかけとなったのは、2年生の後期に先輩が開いてくれた朝の勉強会。基礎的な内容で、取組みやすかったです。私もウイークリーテストを受けていましたが、問題をもらって自分で解くだけでも勉強になるので、部活動で忙しい人にもおすすめです。

中島 ● 1年生の終わりから、ウイークリーテストに参加し始めました。また、教職の勉強をしている先輩に教科書やノートを見せていただくことで、自分なりのやり方を見つけて、自分専用の教職ノートを作り始めました。最終的には9冊になったんですよ。

佐野 ● 2年生の夏から、時間を見つけては、県の問題の傾向を調べたり、問題集を解いたり、準備を始めました。自分の勉強法がなかなか見つからず、3年生までいろいろな悩みながら試していたこ

中島 ● 部活動を週6日やっていたので、オフの日にもっちり勉強するようにしました。2年生まで寮に入っていたので、勉強する習慣は身につけやすかったですね。23時から毎日2時間は机に向かうようにしていました。暗記法はとにかく書くこと。伝説の青ペン(日体大オリジナルボールペン)は手放せませんでした。

毛利 ● 特に教職教育Ⅲ研究室のプログラムは教員養成系の大学で日本一だと思います。いろいろな講座が開かれていて、1年生からやれば絶対合格できるプランがあります。僕も厚かましいくらいに参加させていただきましたが、恵まれた環境をフルに活用することが合格の近道だと思います。

佐野 ● やはり図書館での勉強は、周りの人からとても刺激を受けました。勉強方法としては、一冊に限定することなく、いろいろな問題集を使うようにすることが工夫した点です。それによって、同

## 研修部



毛利 太一

(福岡県 直方高校出身)  
体育学部 健康学科  
平成23年3月卒  
採用先:福岡県公立中学・高等学校

### 合格の瞬間

教育実習中に、職員室でネットを見て、先生方にお祝いの会を開いてもらいました。

じ内容で別の角度から出題されても対応できるようにになりました。

### 勉強は白宿って何?

毛利●教職教育Ⅲ研究室の主催で、3年生の秋と冬に行われます。毎朝テストがあつて、その後も対策講座で勉強漬け。夜も翌日のテストのために夜中まで自習しました。意識の高い学生が集まっいて、絶対に負けられないという気持ちになりましたね。

中島●朝のテストで席順が決まるんです。私は最高で2列目まで。勉強しなきゃいけないという雰囲気になって、モチベーションが上がりましたし、教員を目指す友人も増えました。

橋浦●1軍という立場上、参加できなかったもので、やはり焦りましたね。でも、そのプレッシャーが逆に刺激になったかもしれません。

佐野●僕も中距離ブロックのリーダーで参加できず、友達から情報を教えてもらいました。

### 採用試験でここが役立った!

橋浦●私立の多くは書類選考が第一関門なので、キャリア支援センターの方に履歴書を細かく添削していただきました。高校時代に表彰された経験があり、その時の新聞記事のコピーと一緒に提出したらと勧められました。また、模擬面接を週2回やってもらったことも役立ちましたね。質問

# 現役 教員採用試験



に対する答えを予め考え、パソコンに打ち込んでおいたことで、本番でもスムーズに答えることができました。

中島●1次試験は過去問題を結構勉強していたので、自信を持って解答することができました。2次対策では、面接、模擬授業などを練習しました。1次合格者はかりなので、本番さながらの雰囲気でした。

毛利●実は、1次試験の集団討論のテーマが、教職教育Ⅲ研究室の講座で勉強したものと同じだったんです。「いじめを起ささないためにはどうしたらいいか」。先生の解説を聞いていたので、議

論を十分深めることができました。また実技では、評価が厳しそうだと思い、試験直前になってバレーボールからハンドボールに種目を変更。研修部の合宿で経験していたおかげで、臨機応変な対応ができました。

佐野●1次はマークシートではなく記述式の出題。勘で解ける問題ではありません。しっかりと勉強しておいたおかげで、不安はありませんでした。先生方の面接指導も役立ちましたね。自分で作った面接ノートの最初には、先生の言葉を書きました。「汗をかいて、恥をかいて、文を書け」。勉強の励みになりました。

論を十分深めることができました。また実技では、評価が厳しそうだと思い、試験直前になってバレーボールからハンドボールに種目を変更。研修部の合宿で経験していたおかげで、臨機応変な対応ができました。

### 夢&後輩へのメッセージ

橋浦●僕とかかわることで夢や希望、笑顔を持ってようになった。そういう生徒を育てたいです。生徒の痛みがわかり、挫けそうになったとき、見守ってあげられる教員になりたいですね。大学4年間には辛いことや苦しいこともあると思いますが、自分が成長するためのチャンスだとプラスにとらえ、頑張ってください。

中島●これから始まる教員生活の中で、年齢に応じた等身大の自分を、格好つけてないで生徒に見せられたらいいですね。新任の今年は、生徒に一番近い存在として頑張っていきたいです。部活で時間がなくても、信念があれば夢はかないます。教員になりたいという気持ちを持ち続けることが大事だと思います。

毛利●誰もが楽しいと思える授業が早くできるように、いろいろ工夫して勉強していきたいです。体育教員を育成する大学の中で日体大は日本一です。日体大でしか学べないことを、日体大生らしく学んでください。

佐野●指導力、コミュニケーション能力があり、生徒のことを第一に考えられる教員でありたい。このことは肝に銘じて、日々勉強していきたいです。目指すのは、山梨県一の体育教員です。大学生活を有意義なものにするのは自分自身の努力。4年後、よかつた心から思えるように頑張ってください。

## 大切なのは 教員になりたいという 信念を持ち続けること

## 陸上競技部



佐野 隆一

(山梨県 市川高校出身)  
体育学部 社会体育学科  
平成23年3月卒  
採用先:山梨県公立中学校

### 合格の瞬間

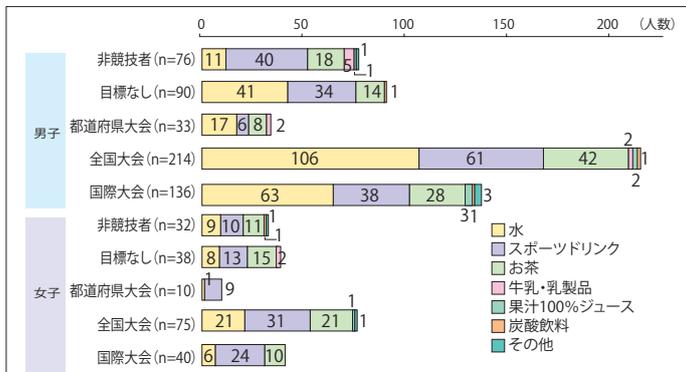
ネットを見ようとパソコンの前に座りましたが、緊張でうろたえて泣き止まらなかった。

# 競技力の向上は自己管理から

## ② 何を利用しているか

競技目標レベルによる差はみられず、主に水、スポーツドリンク、お茶を利用していました(図2)。

◆図2 水分補給に利用しているもの(競技目標レベル、性別での比較)



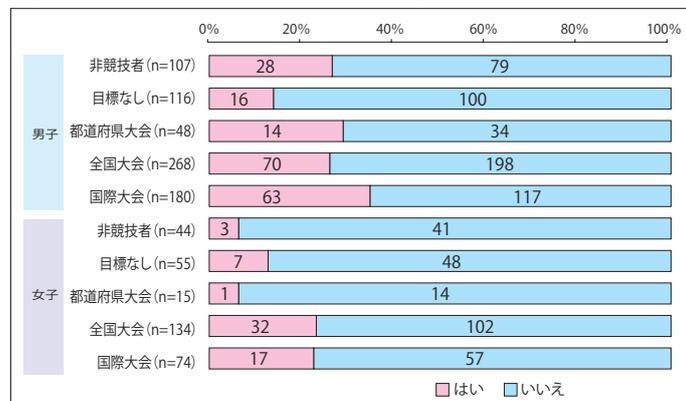
**コメント** 水分補給を実施していない学生もみとめられました。パフォーマンスの向上だけでなく、熱中症予防のためにも、どのような飲料を利用するのかを含め、実践的な水分補給方法についての教育が必要と考えられます。

## 2) サプリメントについて

### ① サプリメントの利用

いずれの競技目標レベルにおいても、60%以上の学生はサプリメントを利用おらず、男女ともに競技目標レベルが高いほど、サプリメントを利用している学生が多く、また、男子の方が女子よりもサプリメントを利用している傾向にありました(図3)。

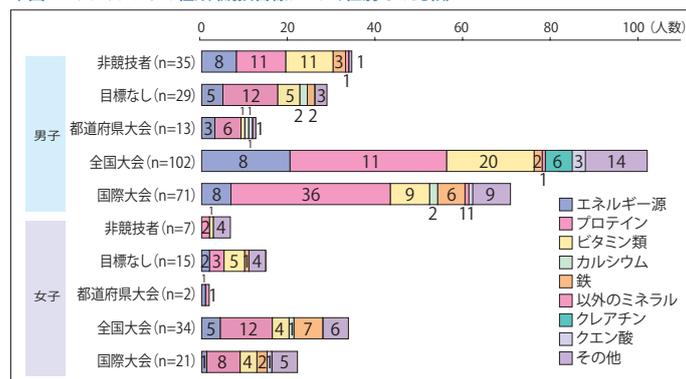
◆図3 サプリメントの利用について(競技目標レベル、性別での比較)



### ② サプリメントの種類

女子は競技目標レベルが上がるほど、利用しているサプリメントの種類は多い傾向を示しました。男子ではプロテインの利用が多く、また、クレアチンは男子にのみ利用が認められました(図4)。

◆図4 サプリメントの種類(競技目標レベル、性別での比較)



本学では2009年度から新生を対象に『体育・スポーツ科学入門』が開講されました。『体育・スポーツ科学入門』は、新一年生に体育・スポーツの分野における様々なトピックに触れてもらうことを目的としており、新生導入プログラムの一つに位置付けられています。

特にその中で“スポーツと栄養—食事で競技力をのばす—”というタイトルのもとで、競技活動における栄養摂取の重要性を導入する講義が実施されました。本学学生にはトップアスリートのみならず、体育教員といった指導者やアスリートを支えるアスレティックトレーナーなどを志す学生が多く、適切な栄養教育が行われることが重要です。その講義の導入としてスポーツ局の管理栄養士にも協力を得て食意識調査を実施しました。その結果からうかがい知れる日体大一年生の食生活や食意識を3回に渡りご紹介しています。今回はその3回目で、水分補給やサプリメント摂取および体重測定の頻度などを紹介します。

2009年度『体育・スポーツ科学入門』「スポーツと栄養」講義担当: 井川正治、木村直人、鈴木一宏、中里浩一、花原勉、山田保  
2009年度『体育・スポーツ科学入門』世話人: 伊藤雅充、荻浩三、清田寛  
文責: 運動生理学研究室 中里浩一、スポーツ局 安達瑞保

## 方法

### 1) 対象

体育・スポーツ科学入門第13講スポーツと栄養の授業に出席した新生1138名のうち、アンケートに回答した新生の男女1104名(表1)について集計しました。

◆表1 アンケートに回答した新生学別男女内訳

	体育学科	健康学科	武道学科	社会体育学科	合計
男子	490	93	75	111	769
女子	173	88	33	41	335
合計	663	181	108	152	1104

### 2) 調査方法

対象者に記入方法に関する説明を行った後、①将来目指している競技レベル、②食事の競技力への影響、③適切な食事をしているか、④体型について、⑤朝食摂取頻度、⑥食行動変容ステージ(野菜、果物、鉄を多く含む食品、1日3食、バランス、多くの食品、好き嫌い、乳製品、お菓子、食べすぎ)、⑦頻度調査(主食、肉・魚・卵、豆製品、果物、海藻・きのこ・いも、ジュース、お菓子、緑黄色野菜、淡色野菜、野菜ジュース、牛乳)、⑧水分補給、⑨サプリメント、⑩アンチ・ドーピング、⑪体重測定、⑫学食利用頻度、⑬体調(口内炎、風邪、ケガ、排便、集中、食欲、疲れ、練習きつい、疲れ残る、日中眠たい)についてマークシートを用いて自己記入式で調査を実施しました。

将来の競技目標レベルを①プロ・オリンピックなどの国際大会レベル、②全国大会レベル、③都道府県大会レベル、④競技をしているが目標がない、⑤競技をしていない(運動部に所属していない)の中から選択してもらい、それぞれ国際大会、全国大会、都道府県大会、目標なし、非競技者として競技レベルごとに比較検討しました。

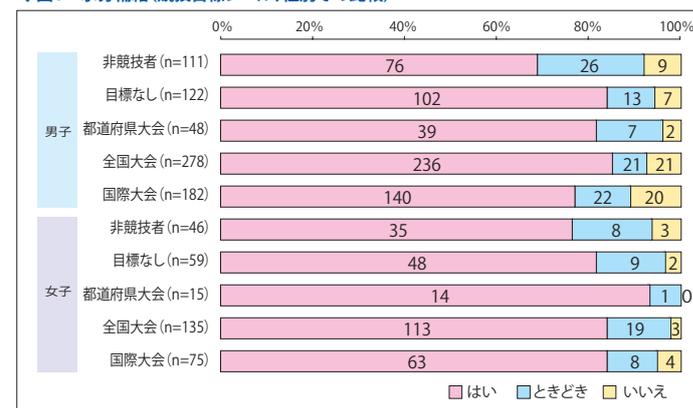
## 結果

### 1) 練習中の水分補給について

#### ① 水分補給をしているか

競技目標レベルごとにみると、男女ともに非競技者で、「はい」の割合(%)は少なかったものの、ほとんどの学生が水分補給をしていました(図1)。

◆図1 水分補給(競技目標レベル、性別での比較)



# 2009年度日体大1年生の栄養調査とその実態 ③

## 朝食から始めるアスリートの食事

平成21年国民健康・栄養調査結果によると、習慣的に朝食をほとんど食べない人の割合は、男性10.7%、女性6.0%であり、男女ともに年齢別にみると20歳代、30歳代で多くみられました。21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）における目標の中で、朝食を欠食する人の割合は中・高校生は0%、20歳代および30歳代の男性で15%以下、と提示されていますが、これを上回っている状況です。

また、朝食欠食が始まった時期について、習慣的に朝食を欠食している人のうち、朝食を食べない習慣が「小学生」又は、「中学、高校生」の頃から始まったと回答した人は、男性32.7%、女性25.2%、大学入学時にもあたる「高校を卒業した頃から」と回答した人は男性で17.2%、女性で14.2%でした。（平成21年国民健康・栄養調査結果概要 厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室）

本学新入生では、特に非競技者の男子で習慣的に欠食している割合が多く、全体では男子13.5%、女子8.0%でした。新入生は大学生活に慣れておらず、初めてのひとり暮らしや自炊に直面し、調査時は毎日朝食を食べることが難しかったかもしれません。朝食を食べるためには、「起きて、朝食を準備し、食べる」といった、ある程度の時間が必要です。そのため、朝食を食べない時よりも早く起きなくてはなりません。朝食を食べるためには「早寝早起き」など生活のリズムを整えることが大切です。

必要な栄養素を過不足なく摂取するためには、毎食の食事で主食、主菜、副菜をそろえることがポイントです。アスリートは、フルーツと乳製品をプラスした「基本の6皿」（学報NITTAIDAI 14号 p.10参照）を毎食そろえることで、バランス良く必要な栄養を摂取することができます。例えば外食の場合は、単品メニューではなく定食を選ぶなど、少しの工夫でより多くの栄養素を摂取でき、バランスを整えることができます。

### ◆朝食メニュー例

	和食パターン	洋食パターン
主食	ごはん	パン
汁もの	味噌汁	コンソープ
主菜	卵料理、納豆、ハムなど	
副菜	サラダ、野菜ジュースなど	

### アスリートは・・・

果物	バナナなど果物、果汁100%ジュース
乳製品	牛乳、ヨーグルトなど

※汁ものがない場合は、副菜を1品増やして2品組合せましょう。

朝食を食べていない人にとって、明日からいきなり「基本の6皿」をそろえて食べることは大変だと思います。まずは牛乳や果汁100%ジュースを飲むことから始め、毎朝飲む習慣ができたなら次にご飯を加える、というように、少しずつ色々なものを組合せていきましょう。理想的な栄養摂取について、知識だけではなく実践し継続することが大切です。将来、食生活の面でも子ども達のお手本となるようなトップアスリートや指導者などを目指し、今日からできることを見つけ取り組んでみましょう。

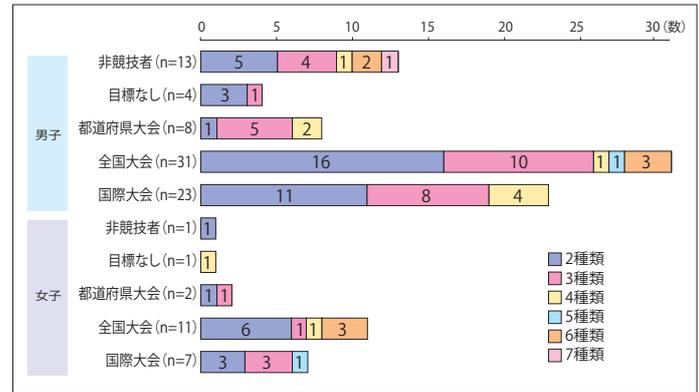
## 最後に・・・ 日体大でスポーツに関わる 様々な学問領域に触れてください。

これまで3回にわたり新入生導入プログラムのひとつである「体育・スポーツ科学入門」の中で実施された食意識アンケートの結果を掲載いたしました。栄養摂取と競技力・体調との密接な関わりや、普通の食生活で注意すべき点などを感じていただけたかと思います。また、講義受講者からも講義後に栄養摂取に対する意識がかわったという声をいただいています。

競技力向上やスポーツ文化発展には栄養学以外にも様々な分野の学問領域が貢献しています。一年次に体育・スポーツ科学入門においてスポーツに関わる様々な学問領域の紹介が行われます。是非積極的に受講していただき、二年次以降に興味のある学問領域の学習を深化してもらえれば幸いです。

ブドウ糖・エネルギー源、プロテイン・ペプチド・アミノ酸、ビタミン類・マルチビタミン、カルシウム、鉄以外のミネラル類、クレアチン、クエン酸、その他の中から複数選択可で質問した結果、複数の種類を利用している学生は101名(男子79人、女子22人)でした。そのうち10名は5種類以上のサプリメントを利用しており、女子では3種類以上のサプリメント利用は競技者のみでしたが、男子は非競技者においても複数のサプリメントを利用していました(図5)。

◆図5 利用しているサプリメントの種類数(競技目標レベル、性別での比較)

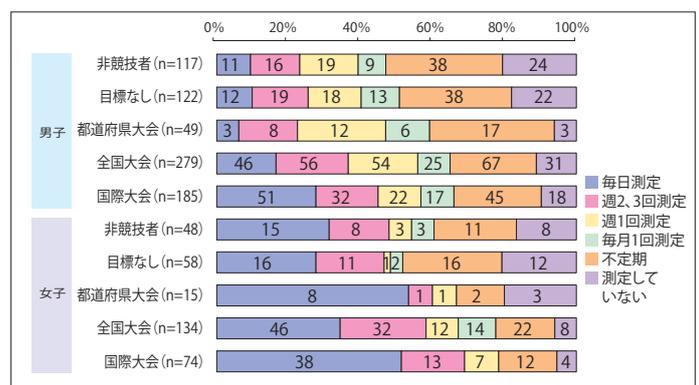


**コメント** 多くの食品の摂取頻度が非競技者よりも競技者で高く、サプリメント利用者も競技者の方が多く、結果になりました。また、女子よりも男子の方がサプリメントの利用者が多く、種類別にみると、非競技者を含めてプロテインの利用が多いことがわかりました。男子の方が利用しているサプリメントの種類が多く、複数の種類を利用している学生が多いことがわかりました。非競技者において7種類利用している学生もみられ、サプリメントの利用について必要な知識や食事の整え方、アンチ・ドーピングについて、十分な食教育が必要であると思われました。

## 3) 自己管理—体重測定

非競技者や目標レベルが明確ではない選手では、「測定していない」という回答が多い傾向にあり、競技目標レベルが高いほど、「毎日測定」という回答が多く、男女の比較では、女子の方が測定頻度は高い傾向にありました(図6)。

◆図6 体重測定の頻度(競技目標レベル、性別での比較)



**コメント** 本調査において、体型に対するイメージには明らかな男女差がみられました。同様に、体重測定の頻度にも男女差がみられ、競技特性だけではなく、体型に対するイメージが影響していることも考えられます。

体重は、コンディションを把握するための大切な指標のひとつです。栄養素摂取状況についても、体重の変化から評価することができます。期分けに応じたトレーニングの実施、季節、体調、食事などにより、自分の体重(体脂肪率)がどのように変化するのが把握することは、コンディションを自己管理するために欠かせません。これらについてもふまえた食教育を行うことが重要であると思われます。

TOPICS

### 平成22年度卒業生・修了生おめでとうございます。

平成23年3月10日(木)、横浜・健志台キャンパスにおきまして卒業式及び学位記授与式が挙行されました。平成22年度の卒業生及び修了生の人数は以下の通りです。今後のご活躍をお祈りいたします。

設置	体育学部				専攻科 体育専攻	大学院 博士前期課程
	体育学科	健康学科	武道学科	社会体育学科		
大学	819	169	112	178	7	31
		体育科	幼児教育保育科	専攻科保育専攻		
短大	140		34		39	



TOPICS

### 平成22年度第2回公開講座を開催しました。

平成23年2月20日(日)、東京・世田谷キャンパス記念講堂において、世田谷区後援のもと平成22年度第2回日本体育大学公開講座「メタボリックシンドロームの基礎講習及び栄養指導並びに運動実践」を開催致しました。

中高年の生活習慣病等健康に関心をお持ちである大学周辺にお住まいの方を中心に、60名を超える方々が参加され、大野誠教授と安達瑞保スポーツ局管理栄養士の講演に興味深く受講されていました。また終了後、講堂脇のフロアで成田和穂研究室の学生の方々のご協力により血圧と体組成の測定が実施され、こちらも関心が高く結果について説明を受ける方が多くいらっしゃいました。



TOPICS

### 大学院キックオフセミナーを開催

平成23年3月5日(土) 13時から、東京・世田谷キャンパスB階記念講堂にて、『体育系大学・大学院における教師及びコーチ養成の展望』のセミナーを開催致しました。

大学院では、平成23年4月より、大学院博士前期課程(修士課程)を「体育科学コース」と「体育実践学コース」の二つに分化させ、「体育実践学コース」では、高度な実践力を備えた「スーパーコーチャー」と「スーパードクター」の育成を目指します。今回、開設に先立ってセミナーを開催し、体育系大学・大学院におけるコーチ及び教師養成のあり方についてグローバルな視点から議論することを目的として開催しました。今後の大学院の活動に注目が集まりそうです。



## 平成22年度 [下半期クラブの主な大会成績]

スポーツ課調べ 1月~2月  
情報は新聞各紙(日体大スポーツ含む)・インターネットからの抜粋

クラブ名	性別	大会名	種目	順位	氏名
■体操競技	男子	2011スタンフォード・オープン	団体	1位	山本雅賢(3年)、青山政高(2年)、瀬島龍三(1年)
■レスリング	男子	シャヒード・バクト・シン国際大会	フリースタイル 55kg級	3位	森下史崇(1年)
■ハンドボール	男子	第22回男子世界選手権	出場		信太弘樹(3年)
■柔道	男子	ワールドカップ アダプト	60kg級	優勝	山本浩史(3年)
■フェンシング	女子	第18回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会	ジュニアサーブル	2位	上野恵梨子(2年)
		第3回全国サーブルチャレンジカップ大会	ジュニア	2位	上野恵梨子(2年)
■スケート部(スピード)	男子	第83回日本学生氷上競技選手権大会	2000mリレー	2位	矢野力也(4年)、中嶋宣成(2年)、長内慎太郎(4年)、原宏彰(3年)
		JOCジュニアオリンピックカップ第34回全日本ジュニアスピードスケート選手権大会	総合部門	3位	渡部知也(1年)
		第43回関東学生スピードスケート選手権大会	3000m	2位	渡部知也(1年)
		ジャパンカップ第4戦 山梨	500m	3位	中嶋宣成(2年)
			1500m	2位	渡部知也(1年)
		ジャパンカップ第5戦 長野	3000m	3位	石原大暉(1年)
	女子	第83回日本学生氷上競技選手権大会	3000m	優勝	石原大暉(1年)
			団体	2位	
			500m	優勝	清水玲香(3年)
			3000m	優勝	藤村あゆみ(3年)
			1000m	2位	清水玲香(3年)
			1500m	優勝	藤村あゆみ(3年)
			2000mリレー	優勝	大久保あゆみ(4年)、工藤朋佳(4年)、藤村あゆみ(3年)、清水玲香(3年)
		第43回関東学生スピードスケート選手権大会	チームパシュート	2位	工藤朋佳(4年)、藤村あゆみ(3年)、阿部真衣(1年)
			学校対抗	2位	
			1000m	優勝	藤村あゆみ(3年)
			1500m	優勝	藤村あゆみ(3年)
			3000m	3位	阿部真衣(1年)
			チームパシュート	2位	藤村あゆみ(3年)、清水玲香(3年)、阿部真衣(1年)
		ジャパンカップ第4戦 山梨	500m	2位	清水玲香(3年)
			1500m	3位	藤村あゆみ(3年)
■アーチェリー	男子	第20回全日本室内選手権大会	リカーブ個人	2位	坂野太一(3年)
		2010年度 全日本学生RCS第9戦	コンパウンド個人	2位	島田隆之(院1)
		第5回明治神宮外苑大学クリテリウム	クラス3B	2位	坂本東司雄(1年)
	女子	2010年度 全日本学生RCS第9戦	グループ3B	優勝	福沢涼太(1年)
		第5回明治神宮外苑大学クリテリウム		1位	小島蓉子(1年)
				2位	田中まい(3年)
				3位	古河麻美(2年)
				3位	田中まい(3年)



TOPICS

平成22年度 退職者紹介

大出 一水 (おおで かずみ)

昭和40年早稲田大学卒業。昭和43年に本学に助手として着任。平成4年に教授。社会体育学科長、野外学習委員会、スキー部部長ほか歴任。日本体育学会、日本バイオメカニクス学会ほかにて活動。全日本学生スキー連盟アルペン副部長、日本スキー学会評議員、冬季ユニバーシアード大会アルペンスキーヘッドコーチ(スペイン・イタリア)ほか歴任。平成23年3月定年退職。

緒方 章宏 (おがた あきひろ)

昭和43年明治大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。調布学園女子短期大学助教授、筑波大学医療技術短期大学部教授を経て、平成5年に本学に教授として着任。教養科長、学生委員会、海外・学術スポーツ交流委員会、教務委員会ほか歴任。日本公法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会、日本教育法学会、日本スポーツ法学会ほかにて活動。平成23年3月定年退職。

長船 哲齊 (おさふね てつあき)

昭和41年日本大学獣医学部卒業。東京医科大学助教授を経て、平成6年に本学に教授として着任。平成6年に教授。東京大学応用微生物学研究所研究生(S45~S48)、米国ブランダイス大学リサーチ・アシエイト(H4~H6)、米国ブランダイス大学光生物学研究所客員研究員(H6~H10)、体育研究所委員会、施設・財務委員会ほか歴任。日本電子顕微鏡学会評議員・理事ほか歴任。平成23年3月定年退職。

木場本 弘治 (きはもと ひろじ)

昭和42年本学卒業。高校教諭を経て、昭和43年に本学に助手として着任。平成3年に教授。海外・学術スポーツ交流委員会委員長、学内行事委員会、ゴルフ部部長、ボート部部長ほか歴任。日本体力医学会、臨床運動療法研究会ほかにて活動。日米親善大学ゴルフ対抗戦大会実行委員長、世界大学ゴルフ対抗戦大会実行委員長、関東大学生ゴルフ連盟理事ほか歴任。平成23年3月定年退職。

竹林 実紀子 (たけやし みきこ)

昭和36年国立音楽大学卒業。幼稚園主任教諭を経て、平成13年に本学短期大学部に講師として着任。平成19年准教授。日本保育学会、児童学会、幼児音楽研究会、OMEF(世界幼児教育機構)子どもの文化研究所所員、みゆき保育園保育アドバイザーほかにて活動。平成23年3月定年退職。

藤原 侑 (ふじわら すずむ)

昭和39年本学卒業。同年助手として着任。昭和63年に教授。学生部長、寮監長補、学生委員会、学内行事委員会、入試検討委員会、教務委員会、保健委員会、スポーツ局構想プロジェクト、入学試験検討委員会、ハンドボール部部長ほか歴任。日本体育学会ほかにて活動。関東学生ハンドボール連盟理事、全日本学生ハンドボール連盟理事長ほか歴任。平成23年3月定年退職。

小川 幸三 (おがわ こうぞう)

昭和43年本学卒業。同年助手として着任。平成12年に教授。体育学科長、健志台台宿寮寮監、保健委員会、健康管理センター運営委員会、ソフトボール部部長ほか歴任。日本体育学会、日本スポーツ方法学会ほかにて活動。国際協力事業団青年海外協力隊技術専門委員、日本体育協会ソフトボール強化委員、全日本大学ソフトボール連盟常任理事ほか歴任。平成23年3月退職。

高橋 一衛 (たかはし かずえ)

昭和45年本学卒業。昭和46年に本学に助手として着任。平成15年に教授。体育研究所兼任所員、教務委員会、卓球部部長、スカッシュ同好会顧問ほか歴任。日本体育学会、日本条件反射学会、日本体力医学会、日本学校保健学会、日本医用マスケトル学会、疲労研究会、日本運動生理学会、日本生理学会、日本安全学会理事ほかにて活動。平成23年3月退職。

浜田 元輔 (はまだ もとすけ)

昭和41年本学卒業。高校教諭を経て、昭和46年に本学に助手として着任。平成19年に准教授。健志台台宿寮寮監、施設委員会、紀要委員会、保健委員会、スポーツトレーニングセンター委員会、水泳部監督ほか歴任。日本水泳連盟水泳指導員・1種公認審判員、日本体育協会トレーニングドクター、川崎市教育委員会親子水泳教室講師ほかにて活動。平成23年3月退職。

三宅 香 (みやけ こう)

昭和42年本学卒業。ドイツ体育大学ケルン モダン芸術ダンス専門コース修了。昭和44年に本学に助手として着任。昭和61年に教授。武道学科長、海外・学術スポーツ交流委員会委員長、学内行事委員会、厚生文化部統括部長、ダンス部部長ほか歴任。日本体育学会、日本バイオメカニクス学会、舞踊学会ほかにて活動。日本女子体育連盟理事・副理事長ほか歴任。平成23年3月退職。

TOPICS

通学電車に関するマナー講話を実施しました。

平成23年1月15日(土)に開催された平成22年度学生会秋季総会において、東京急行電鉄株式会社より講師(青葉台駅長)をお招きし、約2,200名の本学学生会員に対して通学電車に関するマナー等に関する講話を実施しました。

これは、本学で発生した一昨年からの一連の不祥事における再発防止活動の一環として行われたものであり、二度と同様の事件を引き起こさないためにも、このような活動を行い、全学一丸となり継続して再発防止活動を実施していく予定です。



TOPICS

平成23年度 入学試験結果

平成23年3月11日現在  
アドミッションセンター入試課

■大学／体育学部

※( )内は女子内数 \*倍率=受験者数÷合格者数

区分	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
体育学科	A O	263 (86)	260 (84)	2.34
	推薦	477 (134)	477 (134)	1.09
	一般	1405 (330)	1392 (328)	3.43
	学科計	2145 (550)	2129 (546)	2.23
健康学科	A O	21 (16)	20 (15)	1.54
	推薦	25 (16)	25 (16)	1.14
	一般	426 (155)	421 (153)	1.58
	学科計	472 (187)	466 (184)	1.55
武道学科	A O	69 (16)	69 (16)	1.11
	推薦	42 (13)	42 (13)	1.05
	一般	40 (9)	36 (8)	1.00
	学科計	151 (38)	147 (37)	1.07
社会体育学科	A O	63 (29)	62 (28)	2.95
	推薦	26 (15)	26 (15)	1.13
	一般	676 (120)	672 (119)	2.11
	学科計	765 (164)	760 (162)	2.09
合計	A O	416 (147)	411 (143)	1.99
	推薦	570 (178)	570 (178)	1.09
	一般	2547 (614)	2521 (608)	2.45
	総合計	3533 (939)	3502 (929)	2.00

※A O入試はトップアスリートA O入試、各学科A O入試を含む ※帰国子女は一般入試を含む

■大学院体育科学研究科

区分	博士前期課程		
	志願者数	受験者数	合格者数
スポーツ文化・社会科学系	6 (1)	6 (1)	6 (1)
トレーニング科学系	19 (3)	19 (3)	11 (1)
健康科学・スポーツ医科学系	5 (0)	5 (0)	5 (0)
コーチング学系	15 (1)	15 (1)	12 (1)
スポーツ教育・健康教育学系	14 (5)	14 (5)	10 (4)
合計	59 (10)	59 (10)	44 (7)

■短大／体育科・幼児教育保育科

区分	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
体育科	A O	35	35	30	1.17
	推薦	58	58	57	1.02
	一般	210	209	165	1.27
	合計	303	302	252	1.20
幼児教育保育科	A O	21	21	16	1.31
	推薦	22	22	22	1.00
	一般	7	6	6	1.00
	合計	50	49	44	1.11
合計	A O	21	21	16	1.31
	推薦	80	80	79	1.01
	一般	217	215	171	1.26
	合計	353	351	296	1.19

※帰国子女は一般入試を含む ※一般入試は、Ⅱ期試験を含む

■体育専攻科

志願者数	受験者数	合格者数
12 (1)	12 (1)	12

■編入学

志願者数	受験者数	合格者数
119 (117)	117 (115)	102 (102)

■短期大学部 専攻科保育専攻

志願者数	受験者数	合格者数
30	30	29

区分	博士後期課程		
	志願者数	受験者数	合格者数
スポーツ文化・社会科学系	6 (3)	6 (3)	6 (3)
トレーニング科学系	3 (1)	3 (1)	3 (1)
健康科学・スポーツ医科学系	2 (0)	2 (0)	2 (0)
合計	11 (4)	11 (4)	11 (4)



## ■平成23年度 学年暦

	月 日(曜日)	行 事
平成23年 2011	3(日)	入学式
	4(月)～9(土)	1年:初年次教育Ⅰ(学部・短大) 2～4年:年次教育(学部・短大) 前学期授業開始(学部・短大) 研究ゼミナール等履修カード提出期限(学部) 看護実習(学部:健康学科看護コース) 通常授業(昭和の日)
4	11(月)	振替休日(7/18の振替)
	15(金) 中旬～ 29(金)	振替休日(4/29の振替) 教育実習(学部・短大:体育科) 国際交流実習(短大:体育科)
5	2(月)	教育実習2(短大:幼児教育保育科)
	6(金)	社会福祉援助技術現場実習(学部:健康学科社会福祉コース)
6	27(月)～	初年次教育Ⅱ(体験学習 短大:幼児教育保育科)
	3(日)～5(火) 3(月)～9(土) 3(日)～16(土)	マリンスポーツ理論・実習(学部:社会体育学科) 初年次教育Ⅱ(海浜実習 学部・短大:体育科) 2～4年:通常授業
7	10(日)～16(土)	ゴルフ指導実習(学部:体育学科)
	18(月) 29(金)	通常授業(海の日) 前学期授業終了(学部・短大:体育科)
8	1(月)～5(金)	補講・追・再試験期間(学部・短大:体育科)
	2(火) 3(水)～9(火) 6(土)～	前学期授業終了(短大:幼児教育保育科) 補講・追・再試験期間(短大:幼児教育保育科) 夏季休業[9/25(日)まで](学部・短大:体育科) 社会教育実習(学部:社会体育学科)
9	6(土)～10(水) 6(土)～16(火) 6(土)～16(火) 10(水)～	水泳指導実習一日赤水上安全法コース(学部:体育学科) キャンプ指導実習(学部:体育・武道学科) キャンプ実習(短大:体育科)
	8(月) 8(月)中 8/28(日)～9/10(土)	夏季休業 [9/25(日)まで]短大:幼児教育保育科 看護臨床実習(学部:健康学科健康教育専攻) エクセター大学短期留学(学部) キャンプ理論・実習(学部:社会体育学科)
10	5(月)～17(土)	スポーツ現場実習(短大:体育科)
	13(火)～23(金) 20(火) 21(水)～24(土) 26(月) 9/26(月)～10/7(金)	水泳指導実習:ダイビングコース(学部:体育学科) 開学記念日 ゴルフ理論・実習(学部:社会体育学科) 後学期授業開始 ホームルーム期間(前学期成績ガイダンス含む)
11	10(月)	通常授業(体育の日)
	3(木)～6(日)	日体フェスティバル期間
12	12/3(土)、4(日)・ 1/14(土)、15(日) 23(金)	伝統芸能実習Ⅰ(学部:武道学科)
	24(土)～ 24(土)～30(金) 25(日)～27(火) 25(日)～29(木)	通常授業(天皇誕生日) 12月授業終了 冬季休業[1/5(木)まで] 冬季実習期間Ⅰ 比較舞踊学実習(学部:武道学科) スキー理論・実習(学部:社会体育学科)
平成24年 2012	6(金)～10(火)	スキー指導実習(学部:体育・武道学科) スキー実習(短大:体育科)
	6(金) 10(火) 11(水) 1/21(土)・22(日)、 2/5(日)・6(月) 27(金) 1/30(月)及び 2/6(月)～2/10(金) 31(火)	振替休日(12/23の振替) 振替休日(10/10の振替) 1月授業開始 伝統芸能実習Ⅱ(学部:武道学科) 後学期授業終了(試験含む)
1	1/30(月)及び 2/6(月)～2/10(金) 31(火)	補講・追・再試験期間 入学試験準備日(関係者以外立入禁止)
	11(水)～4(土) 11(土)～26(日) 11(土)～21(火)	平成24年度入学試験(関係者以外立入禁止) 冬季実習期間Ⅱ スケート指導実習(学部:体育・武道学科) スケート実習(短大:体育科)
2	12(日)～16(木) 12(日)～21(火) 中旬 22(水)～25(土) 2/27(月)～3/2(金)	スキー実習(短大:体育科) スキー指導実習(体育・武道学科) 伝統文化交流実習・外国語実践実習(武道学科) スケート理論・実習(学部:社会体育学科) ホームルーム・次年度履修申告期間
	10(土) 11(日)～	卒業式 春季休業[3/31(土)まで]

注)実習等の期間については、変更することがあります。

## ■平成23年度新採用教員紹介

- ① [所属:職名]
- ② 所属学科
- ③ 研究室
- ④ 最終学歴
- ⑤ 学位



**櫻井 規子**  
(さくらい のりこ)  
① [大学:助教]  
② 社会体育学科  
③ 運動処方  
④ 日本体育大学大学院  
体育科学研究科体育科  
学専攻博士前期課程  
⑤ 修士(体育科学)



**清水 雅彦**  
(しみず まさひこ)  
① [大学:准教授]  
② 教養・教職科  
③ 社会科学  
④ 明治大学大学院法学  
研究科博士後期課程公  
法学専攻  
⑤ 修士(法学)



**高橋 流星**  
(たかはし りゅうせい)  
① [大学:助教]  
② 体育学科  
③ 運動方法  
(ソフト・野球)  
④ 日本体育大学大学院  
体育科学研究科体育科  
学専攻博士前期課程  
⑤ 修士(体育科学)



**近藤 智晴**  
(こんどう ともやす)  
① [大学:准教授]  
② 教養・教職科  
③ 教職教育Ⅲ  
④ 筑波大学大学院  
博士課程体育科学  
研究科  
⑤ 博士(体育科学)



**須永 美歌子**  
(すなが みかこ)  
① [短大:准教授]  
② 体育科  
③ 体育科専門Ⅰ  
④ 日本体育大学大学院  
体育科学研究科体育科  
学専攻博士前期課程  
⑤ 博士(医学)



**岡本 孝信**  
(おかもと たかのぶ)  
① [大学:准教授]  
② 健康学科  
③ 運動生理学  
④ 大阪大学大学院  
人間科学研究科  
博士後期課程  
⑤ 博士(人間科学)



**別府 健至**  
(べつふ けんじ)  
① [短大:准教授]  
② 体育科  
③ 体育科専門Ⅲ  
④ 日本体育大学大学院  
体育科学研究科体育科  
学専攻博士前期課程  
⑤ 修士(体育科学)



**波多腰 克晃**  
(はたしほ かつあき)  
① [大学:准教授]  
② 武道学科  
③ 体育原理  
④ 日本体育大学大学院  
体育科学研究科体育科  
学専攻博士後期課程  
⑤ 博士(体育科学)



**宇部 弘子**  
(うべ ひろこ)  
① [短大:准教授]  
② 体育科  
③ 教養等Ⅱ教職  
④ 日本大学大学院文学  
研究科心理学専攻博士  
前期課程  
⑤ 修士(心理学)



**鈴木 政一**  
(すずき まさかず)  
① [大学:准教授]  
② 体育学科  
③ 運動方法(サッカー)  
④ 日本体育大学体育学  
部体育学科  
⑤ 学士(体育)



**関 芽**  
(せき めぐむ)  
① [短大:助教]  
② 体育科  
③ 教養等Ⅱ教職  
④ 東京都立大学大学院  
人文科学研究科教育学  
専攻博士課程  
⑤ 修士(教育学)



**北島 洋美**  
(きたじま ひろみ)  
① [大学:准教授]  
② 健康学科  
③ 社会福祉学  
④ 桜美林大学大学院国  
際学研究科老年学専攻  
⑤ 修士(老年学)



**亀山 有希**  
(かめやま ゆうき)  
① [短大:助教]  
② 体育科  
③ 体育科専門Ⅰ  
④ 日本体育大学大学院  
体育学研究科修士課程  
⑤ 修士(体育学)



**小嶋 新太**  
(こじま あらた)  
① [大学:准教授]  
② 武道学科  
③ 運動方法(柔道)  
④ 日本体育大学大学院  
体育科学研究科体育科  
学専攻博士前期課程  
⑤ 博士(医学)



**木下 佳子**  
(きのした よしこ)  
① [短大:助教]  
② 体育科  
③ 体育科専門Ⅱ  
④ 筑波大学大学院体育  
科学研究科スポーツ学専  
攻修士課程  
⑤ 修士(体育学)

【編集後記】卒業式も無事終わり清々しい気持ちで過ごしていた3月11日、世界観測史上最大級 M9.0 東北地方太平洋沖地震が発生しました。被災者の皆様、またご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。次々と報道される被災状況のみならず、被災者の皆様の疲労、心労は正直想像すらつきません。ただ一日も早い復旧を心から願ひ、小さなことでも私達にできる事を取り組み続けています。海外のメディアは『日本はこれほどの惨事のなか暴動等もなく、冷静沈着で、強い国』などと称賛する声が多くあがっています。もちろんすべてが冷静沈着ではないでしょうが、海外の方にはそう映っています。日本人は強いと信じ、世界各国の方も祈り、応援しています。新入生、在学生の皆さん、これから辛いこと、悲しいこともあるでしょう。しかし、日体大生としての誇りをもち、花咲く時を待つ喜びを分かち合える仲間を作り、強い心をもち、被災地そして日本が元気になるよう一緒に頑張らしましょう。